

## ハイリスク薬チェック表(調剤薬局向)

使用にあたっては各薬剤師会・支払基金等によって詳細は確認してください

薬剤師会ガイドライン・愛媛大学付属病院薬剤部作成の表・今日の治療薬・治療薬ハンドブック・ハイリスク治療薬・日経DI虎の巻等の書籍を参考に作成いたしました。

(株)アポファーマシー くすのき薬局 間宮

### <糖尿病剤>

- 低血糖および低血糖状態出現時の対処法の指導
- 低血糖出現(他の糖尿病薬との併用や高齢者、服用量や服用時間の誤り、食事摂取をしなかった場合)等に注意し、ブドウ糖携帯の指導
- 服用時間の確認、服用忘れ時の対処法についての指導(内服)
- 注射手技の確認(注射)
- 薬剤の保管方法、空打ちの意義、投与部位についての説明(注射)
- 注射針の取り扱い方法についての指導(注射)
- Sick Day時の対処法についての指導
- 可能である場合、HbA1cや血糖値の測定結果等による治療経過の確認

内服用糖尿病剤				
一般名	商品名	1日の使用可能量(mg)	調査番号	
スルホニル尿素薬(SU)				
第一世代	トルブタミド	ラスチノン	500~2000	1~4
第二世代	グリベンクラミド	オイグルコン・ダオニール	1.25~10	1~4
第二世代	グリクラシド	グリミクロン	20~160	1~4
第三世代	グリメピリド	アマリアル	1~6	1~4
速効型インスリン分泌促進薬<食直前>				
ナテグリニド		ファスティック・スターシス	90~360	1~5
ミチグリニドカルシウム		グルファスト	15~30	1~5
ビグアナイド薬(BG)				
メトホルミン		メルビン・グリコラン・メデット・ネルビス	500~750	1~4
ブホルミン		ジベトス	100~150	1~4
チアゾリジン薬(TZD)				
ピオグリタゾン		アクトス	15~45	1~4
$\alpha$ グルコシターゼ阻害薬( $\alpha$ GI)<食直前>				
ボグリボース		ベイスン	0.6~0.9	1~5、7
アカルボース		グルコバイ	150~300	1~5、7
ミグリトール		セイブル	150~225	1~5、7
DDP-4阻害薬				
シダグリブチン		ジャヌビア・グラクティブ	25~100	1~4

インスリン製剤		
超速効型<食直前>	ノボラピッド	1~5
	ヒューマログ	1~5
	アピドラ	1~5
速効型<食前>	ノボリンR	1~5
	イノレットR	1~5
中間型	ノボリンN	1~5
	イノレットN	1~5
	ヒューマログN	1~5
混合(2相)型<食直前>	ノボラピッド30ミックス	1~6
	ヒューマログミックス25・50	1~6
混合型<食前>	ノボリン30R・40R・50R	1~6
	イノレット30R・40R・50R	1~6
持効型	レベミル	1~5
	ランタス	1~5

<確認事項>

項目番号	調査項目
1	低血糖症状の有無(発汗、動悸、空腹感、生あくび)
2	併用薬の確認
3	検査値の確認
4	その他気になること
5	用法の確認
6	打つ前に振とう(10回以上振る)
7	下痢・腹痛の有無

<併用薬>

糖尿病患者に禁忌の薬剤例(要確認添付文書)

カテコールアミン	
ドロキシドパ	ドプス
バトロキソピン	デフィブラーゼ
ワルファリン	ワーファリン
成長ホルモン	
女性ホルモン製剤	
ポリドカノール	エトキシスクレロール
オランザピン	ジブレキサ
クエチアピン	セロクエル
エブレレノン	セララ
フルオレセイン	フルオレサイト
エレンタール	
ヘパンED	

BG:ヨード造影剤投与前48時間中止、投与後腎機能正常を確認ご投与

<検査値>

HbA1c

Cre・Ccr BG:腎機能障害時は禁忌(男性Cre>1.5、女性Cre>1.4 or Ccr<60)

DPP-4阻害薬:30≤Ccr<50減量、Ccr<30禁忌

<血液凝固阻止剤>

	一般名	商品名	休薬期間	注意点
A	チクロピジン	パナルジン、チクピロン	7～10日	投与開始2ヶ月間は2週間に1回の血液検査
	クロピドグレル	プラビックス	14日	
	シロスタゾール	プレタール、フレニード	3日	相互作用: CYP3A4・2C19阻害薬に注意・グレープフルーツ禁
	アスピリン	バイアスピリン、バファリン8	7～10日	喘息既往有無・消化性潰瘍有無
B	ワルファリンカリウム	ワーファリン	3～5日	併用禁忌: ゼローダ(出血死亡報告例有)・メナテトレノン(グラケー) 指示通りに服用、忘薬時対処法(2回分まとめて服用しない)確認

参考

イコサベント酸エチル	エパデール	7～10日
イフェンプロジル	セロクラール	2日
サルボグレラート	アンブラーグ	1日
ジピリダモール	アンギナール・ベルサンチン	1～2日
プロスタグランジン	ドルナー・オパールモン	1日

抜歯: 内服継続下での施行が望ましい

- 服薬管理の徹底(検査・手術前・抜歯時の服薬休止と服薬再開の確認)
- 併用薬や食事(納豆等)、一般用医薬品や健康食品との相互作用の指導
- 服薬中は出血傾向となるので、過量投与の徴候(あざ、歯茎からの出血等)の確認とその対策
- 日常生活(閉経前の女性に対する生理中の生活指導等)での注意点の指導
- 血液検査が行われているかの確認と、可能であればその検査データの確認

<検査値確認>

A	GOT・GTP・ $\gamma$ -GTP・ALP・総ビリルビン・WBC・PLT・Cre
B	PT-INR

<副作用の確認>

	副作用	症状	
A	共通	出血傾向	紫斑、歯茎出血等
	パナルジン・プラビックス	肝障害	悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、掻痒感、皮膚・眼球黄染、褐色尿
		無顆粒球症	発熱、咽頭痛、倦怠感
		TTP(血栓性血小板減少性紫斑病)	食欲不振、倦怠感、紫斑等の出血症状、意識障害
	プレタール		動悸・頻脈(狭心症誘発)、ほてり、頭痛・頭重感
アスピリン	消化器症状	胃痛、胸焼け、嘔吐	
B	ワーファリン	出血傾向	歯茎出血、鼻血、皮下出血、血尿等
		皮膚壊死	皮膚が赤くなり痛い
		肝障害・黄疸	悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、掻痒感、皮膚・眼球黄染、褐色尿

<相互作用の確認>

ワーファリンの作用	飲食物	ビタミンK含有食品(納豆、クロレラ、青汁等)
		緑黄色野菜の大量摂取
		セイヨウオトギリソウ
ワーファリンの作用	医薬品	リファンピシン、バルビタール、カルバマゼピン、プリミドン、副腎皮質ホルモン等
		抗生物質、フェニトイン、NSAIDs、SU剤等

<テオフィリン製剤>

一般名	商品名
テオフィリン	テオドール・テオロング・ユニフィル・テオスロー

○喫煙・カフェイン摂取等の嗜好歴及び健康食品の摂取状況の確認と相互作用の確認

○一般用医薬品やサプリメント等との重複使用・相互作用等の確認

○服用による悪心・嘔吐・痙攣・頻脈等の副作用症状について説明し、体調変化の有無及びアドヒアランスの確認

有効血中濃度:5~15  $\mu\text{g}/\text{ml}$ (高齢者:5~10  $\mu\text{g}/\text{ml}$ で効果のない時は中止)

血中濃度	副作用
20~25 $\mu\text{g}/\text{ml}$	消化器症状・頭痛・心拍数 $\uparrow$ (100~119/分)
25~40 $\mu\text{g}/\text{ml}$	心拍数 $\uparrow$ (120以上)・呼吸促進・不整脈・痙攣
40 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 以上	不整脈・痙攣・心停止

<副作用の確認>

消化気症状	悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、胃部不快感
精神神経系	頭痛、不眠
循環器	頻脈、動悸、不整脈

<相互作用の確認>

薬物代謝酵素:CYP1A2

テオフィリンの作用 $\uparrow$	14員環系マクロライド(クラリス、エリスロシン、ルリッド) ニューキノロン系(一部) タガメット
テオフィリンの作用 $\downarrow$	リファジン、フェノバル、タケプロン アレピアチン・ヒダントール、テグレートール セイヨウオトギリソウ 禁煙

OTC薬:テオフィリン・アミノフィリン含有製剤

テオフィリン	ミルコデ錠・アネトンせき止め顆粒、センペア内服液等
アミノフィリン	強力アスメトン

<小児>

慎重投与	①てんかん及び痙攣の既往歴(2才未満の既往歴患者には原則使用しない) ②発熱 ③6ヶ月未満の乳児
------	--

小児1回投与量の目安:有効血中濃度5~10  $\mu\text{g}/\text{m}$

年齢	テオフィリン1回投与量の目安
6ヶ月未満	原則として投与しない
6ヶ月~1才未満	3mg/kg
1才以上	4~5mg/kg

<不整脈用剤>

- 体調変化(ふらつき、動悸、低血糖等の副作用症状)の有無の確認
- 最近の発作状況を聞き取り、薬剤の効果が得られているかの確認
- QT延長を起こしやすい薬剤等、併用薬による症状の変化のモニタリング

クラス	特徴		一般名	商品名	調査番号
I a	Naチャンネル抑制	活動電位持続時間延長	キニジン	硫酸キニジン	1~4、7、8、18、19
			プロカインアミド	アミサリン	1~4、8、13、18
			ジソピラミド	リスモダン、ノルベース	1~4、6、8、12、15、18、19
			シベンゾリン	シベノール	1~6、8、15、18
			ピルメノール	ピメノール	1~6、8、12、15、18
I b	活動電位持続時間短縮	メキシレチン	メキシチール	1~4、9	
		アブリンジン	アスペノン	1~4、13	
I c	活動電位持続時間不変	フレカイニド	タンボコール	1~4、11、13	
		ピルシカイニド	サンリズム	1~4、11	
		プロパフェノン	プロノン	1~4、19	
II	β遮断	プロプラノロール	インデラル	1~4、10、17	
		ピンドロール	カルビスケン	1~4、10、13	
		アルプレノロール	スカジロール	1~4、10、13	
		オクスプレノロール	トラサコール	1~4、10、13	
III	Kチャンネル抑制	ブフェトロール	アドピオール	1~4、10、13	
		アミオダロン	アンカロン	1~4、14、15、19	
IV	Caチャンネル抑制	ソタロール	ソタコール	1~4、11	
		ベプリジル	ベプリコール	1~4、13、16	
		ベラパミル	ワソラン	1~4、13	
		ジルチアゼム	ヘルベッサー	1~4	

番号	調査項目
1	車の運転・危険作業
2	飲酒
3	ふらつき、めまい、失神、心拍数減少
4	動悸、息切れ、心拍数増大
5	高齢者(65才以上少量から開始)
6	便秘
7	下痢(キニジン)
8	排尿障害、眼圧上昇、口渇(I a 抗コリン作用)
9	嚥下能力低下(メキシチール)
10	喘息(β遮断)
11	腎障害
12	糖尿病
13	妊婦禁忌
14	肝毒性、間質性肺炎、甲状腺機能異常、白内障(アンカロン)
15	アベロックス
16	イトリゾール(ベプリコール)
17	マクサルト(インデラル)
18	レビトラ
19	セイヨウオトギリソウ

## <ジギタリス製剤>

一般名	商品名
ジゴキシン	ジゴキシン「AFP」・ジゴシン・ハーフジゴキシンKY
メチルジゴキシン	ラニラピッド
デスラノシド	ジギラノゲン

○ジギタリス中毒症状(食欲不振、悪心・嘔吐、めまい、頭痛、不整脈の出現)が発現していないか確認とその対策

○K排泄型利尿薬やCa含有製剤、β遮断薬等の併用薬との相互作用の注意と、可能であれば血清電解質の検査データの確認

## <副作用の確認>

	症状
消化器症状	食欲不振、嘔気・嘔吐、下痢
神経症状	頭痛、めまい、失見当識、錯乱、譫妄
視覚異常	光がないのにちらちら見える、黄視、緑視、複視など
不整脈	脈拍数低下(特に60以下)、脈の乱れ、動悸
過敏症状	紫斑、浮腫、発疹

ジギタリス中毒を疑う初期症状があればTDM依頼→血中濃度:ジゴキシン治療域0.5~1.5ng/ml

ジギタリス中毒を起こしやすい患者

- ・低K血症(利尿薬の有無)、高Ca血症、低Mg血症
- ・腎機能低下(腎排泄のため)
- ・甲状腺機能低下

チェック項目:電解質(K:      Ca:      Mg:      )腎機能(Cre:      )

## <相互作用>

アンカロン、クラリス、イトリゾール、ヘルベッサー、ワソラン、β遮断薬等

OTC:セイヨウオトギリソウ(血中濃度低下)

### <精神神経用剤>

- 原疾患の症状と類似した副作用（錐体外路症状、パーキンソン症候群等）や致死的副作用（悪性症候群、セロトニン症候群等）のモニタリング
- 特に非定型抗精神病薬では、血液疾患、内分泌疾患等の副作用モニタリング
- 薬識が不足している患者及び患者家族への教育とアドヒアランス
- 薬物の依存傾向を示す患者等に対して、治療開始時における適正な薬物療法に関する情報を提供
- 自殺企図等による過量服薬の危険性のある患者の把握と服薬管理の徹底
- 転倒に関する注意喚起

#### 自殺のサイン（自殺予防の十箇条）

- 1、うつ病の症状に気がつけよう（気分が沈む、自分を責める、仕事の能率が落ちる、決断ができない、不眠が続く）
- 2、原因不明の身体の不調が長引く
- 3、酒量が増す
- 4、安全や健康が保てない
- 5、仕事の負担が休に増える、大きな失敗をする、職を失う
- 6、職場や家庭でサポートが得られない
- 7、本人にとって価値のあるもの（職、地位、家族、財産）を失う
- 8、重症の身体の病気にかかる
- 9、自殺を口にする
- 10、自殺未遂に及ぶ

### <SSRI、SNRI>

分類	一般名	商品名	調査番号
SSRI	セルトラリン	ジェイゾロフト	1～6
	フルボキサミン	デプロメール、ルボックス	1～6
	パロキセチン	パキシル	1～6
SNRI	ミルナシプラン	トレドミン	1～7
	デュロキセチン	サインバルタ	1～6
NaSSa	ミルタザピン	リフレックス、レメロン	1～6

番号	調査項目
1	眠気、ふらつき
2	口渇
3	便秘、下痢
4	悪心、嘔吐
5	相互作用確認
6	その他気になること
7	禁忌：尿閉（トレドミン）

相互作用 MAO阻害薬 エフピー（セレギリン）投与中、あるいは中止後2週間禁忌  
 オーラップ（ピモジド）併用禁忌・・・デプロメール、ルボックス、パキシル、ジェイゾロフト  
 テルネリン（チザニジン）併用禁忌・・・デプロメール、ルボックス



<デパス、リーゼ、レスリン、デジレル>

分類	一般名	商品名	調査番号
ベンゾジアゼピン系	エチゾラム	デパス	1~5
	クロチアゼパム	リーゼ	1~5
その他	トラゾドン	レスリン、デジレル	1~3、6

番号	調査項目
1	眠気、ふらつき
2	相互作用
3	その他気になること
4	禁忌：緑内障(デパス、リーゼ)
5	禁忌：重症筋無力症(デパス、リーゼ)
6	持続性勃起(男性)(レスリン、デジレル)

<フェノチアジン系、ブチロフェノン系、ロドピン>

分類	一般名	商品名	調査番号
フェノチアジン系	クロルプロマジン	コントミン、ウインタミン	1~4
	配合錠	ベゲタミンA、ベゲタミンB	1~4、7
	レボメプロマジン	ヒルナミン、レボトミン	1~4
	フルフェナジン	フルメジン	1~6
	ペルフェナジン	ピーゼットシー、トリラホン	1~4
	プロクロルペラジン	ノバミン	1~4
	トリフロペラジン	トリフロペラジン	1~4
	プロペリシアジン	ニューレプチル	1~4
ブチロフェノン系	ハロペリドール	セレネース、リントン	1~6
	ブロムペリドール	インプロメン	1~6
	ピパンペロン	プロビタン	1~6
	スピペロン	スピロピタン	1~6
	モペロン	ルパトレン	1~6
	チミペロン	トロペロン	1~6
その他	ゾテピン	ロドピン	1~4

番号	調査項目
1	眠気、不眠
2	錐体外路症状(振戦、言語障害、歩行障害、落ち着きがない等)
3	相互作用確認
4	その他気になること
5	禁忌：パーキンソン病(フルメジン、ブチロフェノン系)
6	禁忌：妊婦(フルメジン、ブチロフェノン系)
7	禁忌：2歳未満(ベゲタミン)

相互作用      ブイフェンド(ポリコナゾール)併用禁忌…ベゲタミン

<リーマス、ドグマチール、リタリン等>

分類	一般名	商品名	調査番号
ベンサミド系	スルピリド	ドグマチール	1~8、12
	スルトプリド	バルネチール	1~6、8
	チアプリド	グラマリール	1~6、8
	ネモナプリド	エミレース	1~6
その他	炭酸リチウム	リーマス	1~6、11、12
	メチルフェニデート	リタリン	1~7、9、10、13
	モダニフィル	モディオダール	1~6、10

番号	調査項目
1	眠気、不眠
2	頭痛
3	口渇
4	食欲減退
5	相互作用
6	その他気になること
7	褐色細胞腫(ドグマチール、リタリン)
8	プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍(ドグマチール、バルネチール、グラマリール)
9	緑内障、甲状腺機能亢進、狭心症(リタリン)
10	不整脈(リタリン、モディオダール)
11	妊婦(リタリン)
12	腎機能(リーマス、ドグマチール)
13	視覚障害(リタリン)

相互作用 MAO阻害薬 エプピー(セレギリン)投与中、あるいは中止後2週間禁忌・・・リタリン

<三環系、四環系抗うつ薬>

分類	一般名	商品名	調査番号
三環系抗うつ薬	クロミプラミン	アナフラニール	1~9
	ノルトリプチリン	ノルトレン	1~8
	アミトリプチリン	トリプタノール	1~8
	アモキサピン	アモキサン	1~5、7、8
	イミプラミン	トフラニール	1~9
	トリミプラミン	スルモンチール	1~5、7、8
	ロフェプラミン	アンプリット	1~5、7、8
	ドスレピン	プロチアデン	1~8
	四環系抗うつ薬	ミアンセリン	テトラミド
マプロチリン		ルジオミール	1~8、10
セチプチリン		テシプール	1~5

番号	調査項目
1	眠気、ふらつき
2	口渇
3	便秘
4	相互作用
5	その他気になること
6	尿閉
7	緑内障
8	心筋梗塞回復期
9	QT延長症候群
10	てんかん

相互作用 MAO阻害薬 エプピー(セレギリン)投与中、あるいは中止後2週間禁忌

<非定型SDA、DSS、MARTA薬>

分類	一般名	商品名	調査番号
SDA	リスペリドン	リスパダール	1~5、7
	ペロスピロン	ルーラン	1~5、9
	プロナンセリン	ロナセン	1~5
DSS	アリピプラゾール	エビリファイ	1~5、7
MARTA	オランザピン	ジブレキサ	1~8
	クエチアピン	セロクエル	1~8
	クロザピン	クロザリル	1~7

番号	調査項目
1	眠気、不眠
2	口渇
3	錐体外路症状(振戦、言語障害、歩行障害、落ち着きがない等)
4	相互作用確認
5	その他気になること
6	禁忌:糖尿病(ジブレキサ、セロクエル、クロザリル)
7	検査値確認HbA1c(ジブレキサ、セロクエル、リスパダール、エビリファイ、クロザリル)
8	体重増加(ジブレキサ、セロクエル、クロザリル)
9	用法確認 食後投与(ルーラン)

相互作用      アゾール系抗真菌薬、HIVプロテアーゼ阻害薬投与中禁忌・・・ロナセン

<抗てんかん剤>

	一般名	商品名	調査番号
バルビタール系	フェノバルビタール	フェノバル	1~4
	ブリミドン	ブリミドン	1~4
ヒダントイン系	フェニトイン	アレビアチン・ヒダントール	1~4、7
オキサゾリジン系	トリメタジオン	ミノアレ	1~4
スクシミド系	エトスクシミド	ザロンチン・エピレオプチマル	1~4
スルホンアミド系	スルチアム	オスポロット	1~4
アセチルウレア系	アセチルフェネトライド	クランポール	1~4
ベンゾジアゼピン系	ジアゼパム	ホリゾン・セルシン・ダイアアップ	1~4
	ニトラゼパム	ベンザリン・ネルピン	1~4
	クロナゼパム	リボトリール・ランドセン	1~4
	クロバザム	マイスタン	1~4
イミノスチルベン系	カルバマゼピン	テグレートール・テレスミン・レキシシ	1~4
分枝脂肪酸系	バルプロ酸ナトリウム	デパケン・セレニカ・バレリン	1~4
その他	ゾニサミド	エクセグラン	1~5
	ガバペンチン	ガバペン	1~4、6、8
	トピラマート	トピナ	1~5、8
	ピラセタム	ミオカーム	1~4、8
	ラモトリギン	ラミクタール	1~4

○アドヒアランスの確認

○最近の発作状況を聞き取り、薬剤の効果が得られているか等の確認(過小投与量設定による効果不十分に注意)

○一般医薬品やサプリメントを含め、併用薬や相互作用発言の確認

<確認事項>

番号	調査項目
1	眠気、ふらつきの有無(有りの場合は中毒症状A)を確認
2	肝機能検査値(GOT、GPT、 $\gamma$ -GTP)
3	相互作用B
4	その他気になること
5	発汗減少(エクセグラン、トピナ)
6	視覚障害(ガバペン)
7	歯肉増殖(フェニトイン)
8	腎機能確認C

A	アレビアチン、フェノバル、テグレートール、エクセグラン:眼振、運動失調
	マイスタン、ランドセン:錯乱、失調、呼吸抑制
B	フェノバル、テグレートール:ブイフェンド禁忌
	デパケン、ハイセレニン、セレニカ:カルバベネム系禁忌
C	ガバペン(30<Ccr<60 <1000mg、15<Ccr<29 <500mg、Ccr<14 <200mg)
	トピナ(Ccr<70 半量)
	ミオカーム(40<Ccr<60 半量、20<Ccr<40 1/4量、Ccr<20 禁忌)

妊婦(原則禁忌) デパケン、ハイセレニン、セレニカ



### <抗悪性腫瘍剤>

- 化学療法に対する不安への対応
- 他剤との相互作用等の確認
- 副作用の防止および副作用の早期発見とその対策
- 患者に最適な疼痛緩和のための情報収集、処方提案と患者への説明
- 可能である場合、腫瘍マーカー等による治療効果の確認
- 外来化学療法実施の際に受けた指導内容や提供された情報の確認
- 支持療法の処方・使用の確認あるいは必要に応じた支持療法の提案等
- 一般医薬品やサプリメントを含め、併用薬や相互作用発現の確認
- 緩和治療における麻薬等の使用状況の確認

	調査項目
1	用量設定(身長・体重等の確認)・適応
2	休薬期間の確認
3	副作用の確認
4	補助薬の確認
5	肝機能・腎機能などの臓器障害
6	薬物相互作用
7	食事・喫煙
8	セイヨウオトギリソウの摂取
9	グレープフルーツの摂取
10	緩和治療における麻薬使用状況等の確認

分類	一般名	商品名
アルキル化薬	シクロホスファミド (CPA)	エンドキサン
	メルファラン (L-PAM)	アルケラン
	テモゾラミド	テモダール
代謝拮抗薬	フルオロウラシル (5-FU)	5-FU
	ドキシフルリジン (5'-DFUR)	フルツロン
	カペシタビン	ゼローダ
	テガフル (FT)	フトラフル
	配合	ユーエフティ
	配合	TS-1
	シタラビンオクスファート水和物 (SPAC)	スタラシド
	フルダラビン	フルダラ
	ホリナートカルシウム (LV)	ロイコボリン、ユーゼル
	ヒドロキシカルバミド (HU)	ハイドレア
アロマターゼ阻害薬	アナストロゾール	アリミデックス
	エキセメスタン	アロマシン
	レトロゾール	フェマーラ
ホルモン (抗エストロゲン)	タモキシフェン (TAM)	ノルバデックス、タスオミン
	トレミフェン	フェアストン
ホルモン (抗アンドロゲン)	フルタミド	オダイン
	ビカルタミド	カソデックス
ホルモン (プロゲステロン)	メドロキシプロゲステロン (MPA)	ヒスロンH
ホルモン (エストラジオール)	エストラムスチン	エストラサイト
トメイソメラーゼ II 阻害薬	エトポシド (VP-16)	ラステット、ベブシド
	ソブゾキサン	ペラゾリン
分子標的治療薬	イマニチブ	グリベッグ
	ニロチニブ	タシグナ
	ダサニチブ	スプリセル
	スニチニブ	スーテント
	ソラフェニブ	ネクサパール
	ゲフィチニブ	イレッサ
	エルロチニブ	タルセバ
	ラパチニブ	タイケルブ
	サリドマイド	サレド
	トレチノイン	ベサノイド
	タミバロテン	アムノレイク
非特異的免疫賦活薬	かわらたけ	クレスチン
	ウベニメクス	ベスタチン
その他	アセグラトン	ガルカロン
	エベロリムス	アフィニトール

### <抗HIV剤>

- 服用する回数や時間がライフスタイルと合致しているかの確認
- アドヒアランス低下による薬剤耐性HIV出現のリスクについての説明
- 併用薬や健康食品等との相互作用の指導
- 重大な副作用の発見のため、発熱、発疹等の初期症状について指導し、体調変化の有無について確認(副作用モニタリング)
- 服薬状況の確認
- 症状や検査値(可能である場合)などの確認による治療経過と副作用モニタリング

一般名	商品名	用法・用量	食事の影響
<b>核酸系逆転写酵素阻害剤(NRTI)</b>			
ジドブジン	レトロビル	500~600mgを2~6回に分服	
サニルブジン	ゼリット	80mg/分2(体重60kg未満:60mg/分2)	
ラミブシン	エピビル	300mg/分1又は300mg/分2	
エムトリシタビン	エムトリバ	200mg/分1	
ジダノシン	ヴァイデックスEC	400mg/分1(体重60kg未満250mg/分1)	食間
アバカビル	ザイアジェン	300mg	
テノホビルジソプロキシル	ビリアード	300mg	
ジブトラシン+ラミブシン	コンビビル	2錠/分2	
ラミブシン+アバカビル	エプジコム	1錠/分1	
テノホビルジソプロキシル+エムトリシタビン	ツルバダ	1錠/分1	
<b>非核酸系逆転写酵素阻害剤(NNRTI)</b>			
ネビラビン	ビラミューン	400mg/分2	
エファレビレンツ	ストックリン	600mg/分1	
デラビルジン	レスクリプター	1200mg/分3	
エトラビルン	インテレンス	1回2錠 1日2回	食後
<b>プロテアーゼ阻害剤(PI)</b>			
インジナビル	クリキシバン	2400mg/分3	食間
サキナビル	インビラーゼ	SQV2000mg+RTV200mg/分2	食後
リトナビル	ノービア	1200mg/分2	食後
ネルフィナビル	ビラセプト	2500mg/分2、2250mg/分3	食後
ロピナビル/リトナビル	カレトラ	4錠/分2	
アタザナビル	レイアタツ	2Cap/分2	食中・食直後
ホスアンブレナビル	レクシヴァ		
ダルナビル	プリジスタ	DRV1200mg+RTV200mg/分2	食中・食直後
	プリジスタナイーブ	DRV800mg+RTV100mg/分1	食中・食直後
<b>インテグラーゼ阻害剤(INI)</b>			
ラレテグラビル	アイセントレス	800mg/分2	
<b>CCR5阻害剤</b>			
マラビロク	シーエルセントリ	600mg/分2	